

令和4年2月4日

松阪市議会
議長 堀端 修 様

広報広聴委員会
委員長 松岡恒雄

行政視察報告書

標記の件について、下記のとおりオンラインによる行政視察を行いましたので、その内容等を報告します。

記

1. 開催日時 令和4年1月24日（月）午後1時30分から午後3時10分
2. 相手先 滋賀県大津市議会
議会局 主任 中濱 翔伍 様
議会局 主事 田中 彰人 様
3. 開催場所 リモート開催（第3・4委員会室を使用）
4. 参加者 広報広聴委員会
委員長 松岡 恒雄、副委員長 深田 龍、小川 朋子、
東村 佳子、赤塚 かおり、中村 誠、海住 恒幸

議会事務局
西尾 桂子
5. 作成者 小川 朋子、東村 佳子

6. 視察内容

① 大津市の概要

- (1)市域面積：464.51 平方キロメートル
- (2)人口：342,950 人 148,091 世帯
- (3)特徴：県の南西部、琵琶湖に面し、比良、比叡の山並みを望む。古代には大津京が置かれ、天台宗の総本山である比叡山延暦寺や、紫式部が源氏物語を起筆したといわれる石山寺をはじめ、多くの歴史遺産を有する。京都駅まで鉄道で10分あまりで、京都市への通勤・通学者も多い。琵琶湖や歴史遺産を観光資源に、インバウンド観光客の取り込みを推進。



～市民に開かれた議会 分かりやすい議会を目指して～

序論 大津市議会の広聴活動

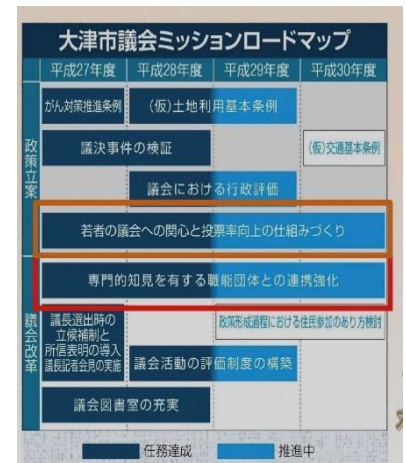
- (1)各種団体との意見交換会
(2)これまでの意見交換会
(3)オンライン意見交換会

【大津市議会の広聴活動】

広聴機能の充実・強化に向けて議会ミッションロードマップに設定

- ・平成 26 年 広聴の強化を図るため、議会広報編集委員会を「議会広報広聴委員会」に名称変更
- ・平成 27 年 議会ミッションロードマップの任務に、「専門的知見を有する職能団体との連携強化」「若者の議会への関心と投票率向上の仕組みづくりを設定

議会ミッション・ロードマップとは現在の議員任期４年間で議会として取り組むべき項目をあらかじめ設定した上で、市民の皆さんに公表し、年次的に進めていく議会版の実行計画



【(1)各種団体との意見交換会】

- ・毎年3～5の各種団体と意見交換会を開催
- ・医師会、女性団体とは30年以上の歴史あり
- ・依頼があった団体からテーマが設定される場合が多いが、それぞれ自由に意見交換

★専門的知見を有する職能団体との連携強化

⇒医師会、商工会議所、PTA 連合会、自治連合会、かがやきネットワーク（女性団体）

↓政策立案につながった事例

①議員提案による「がん対策推進条例」の制定

②ミッションロードマップテーマに「歯と口腔の健康づくり」を選定

★若者の議会への関心と投票率向上の仕組みづくり

⇒龍谷大学政策学部ゼミ生、市内高校生、大学生インターンシップ生との意見交換会、

継続的に聴取してきた若者の意見や提案を政策検討会議の議論に生かし広聴活動が政策立案につながり正副議長から選挙管理委員会委員長と教育長へ提言書を提出

↓政策立案につながった事例

①学校現場、教育委員会、選挙管理委員会が連携した主権者教育の推進

②投票者の利便性や投票の公正性、公平性に考慮した期日前投票所の維持及び商業施設等での期日前投票所設置推進

③投票者の利便性向上に資する共通投票所の設置検討

④若者の政治参加意識高揚に向けた啓発活動の充実や若者を投票立会人や事務従事者として参画するための計画的取組

【(2)これまでの意見交換会】

- ・多くの参加者を募る ⇒ 多様な意見による議論の活発化
- ・対面式での開催 ⇒ 一堂に会する事で心的距離感を縮小
- ・テーマ別グループ単位の議論、発表 ⇒ 議論内容の深化、情報共有による理解促進

【(3)オンライン意見交換会開催経緯】

①新型コロナウイルス感染症拡大 ⇒ 令和2年初旬から感染が拡大 ⇒ 密になる対面式での開催が困難に

②議長公約「オンライン本会議の開催」⇒オンライン本会議の開催に向けた動きが活発化

◎オンラインでの意見交換会開催可能性の検討、実施へ

○事例紹介

- ・高校生と市議会議員によるオンライン意見交換会（ZOOM）
- ・大津市医師会とのオンライン意見交換会（Microsoft Teams）

●3 今後の課題と取組

□課題

- ・相手方との調整
 - ⇒使用するソフトの選択 ⇒参加人数の調整
- ・技術革新は日進月歩であり、日々新たな機材やサービスの提供がある
 - ⇒機材やソフトのアップデート(機種・サービスの見極め、費用)⇒議員や事務局員のスキルアップ、人員確保
- ・各種団体との関係構築

□取組

- ・オンラインでの開催は一堂に会することなく開催できるため、現在のコロナ禍及びウィズコロナ時代においても有効な手段
 - ⇒今後意見交換を希望する場合はオンライン開催を積極的に案内する
 - ⇒従来型の対面式での意見交換はオンラインでの開催とは別の利点があることから、社会情勢を勘案しながら開催を模索する

●4 質疑応答

問：各種団体との意見交換の実施主体はテーマごとに委員会が行うのか？

答：実施団体によって変わる。高校生は政策検討会議が主体、大津市医師会は打診をもらい広報広聴委員会が運営主体となって、プラスアルファ参加したい方を募るなど。基本的には広報広聴委員会が行う。

問：意見交換会の際に議会報告に関する説明などは行うのか？

答：議会で何があった、議案が通りましたなどの報告ではなく、テーマを定めて、そのテーマに沿って意見交換している。

例) 医師会との意見交換は、基調講演後に意見交換に入る。

問：対面式とオンライン式で違うところはあるか？

答：基本的には同じ。大きい枠組みで意見交換した後に、少人数に分かれて行う二部構成のスケジュールを組むこともある。

問：相手方の団体によっては、会議システムのツールが整っていない場合もあるかと思うが、相手方からの問い合わせには応じているか？

答：スキルまでお伝えすることは難しい。

問：議員のスキルアップ講習はあるか？

答：改選期に新人に対して研修は行うが、これ以降は不明な点があれば事務局の方で職員が教える。

問：今後の課題に各種団体との関係構築とあるがこれからの具体的な内容は？

答：大事なことだと思っている。定例的にしていた団体とは構築できているが、オンラインになってからはまだ着手ができてないようなところはある。

問：大津市議会のミッションロードマップの課題に合わせて団体との意見交換を行っているのか、その都度、その都度で相手方を決めて進めているのかどちらに重きを置いているのか？

答：後者。ミッションロードマップは議会での取り組みを明確化したもので、期間が終了したから終わりではなく、その都度その都度開催して、広聴機能の強化として有意義なものにするためにも継続していく。

問：タブレットは何を使っているのか？

答：iPad の第 6 世代で 1 回目の導入は平成 26 年。5 年のリース契約となっている。ソフトやハード面も重要かと思うので情報共有をお願いしたい。

問：オンラインで 30 人程度が限界の根拠は？

答：参加者が多いとソフトに負荷がかかる。現状ハード面とソフト面からは十分に対応できるのがそのくらいの人数。ネットワーク環境も各自で違うので人数が増えると管理も難しくなっている。

問：コロナ禍が収束した場合の開催方法は？

答：オンラインと対面のどちらにも利点がある。オンラインでと言われたらオンラインで行い、直接会って話し合うのがベストだという意見もある。どちらも並立して行う。

問：松阪市で行うとテーマが幅広くなるのですがどのように設定しているか？

答：相手方と相談の上、大きな枠でテーマを決めている。細かいテーマに関しては小グループの場でしていく方がスムーズかと思う。

問：意見交換会での内容を執行部に届けたりはしていないのか？

答：執行部に毎回毎回提言書としてまとめて出していない。議員の判断で一般質問や委員会での質疑で出すことはある。

⑤所感

早くからタブレット端末を導入し、議会報告編集委員会を議会広報広聴委員会に名称変更し、議会の広聴機能の強化・充実につなげている事例をいくつも紹介いただき、今後へ向けとても参考となりました。

オンラインは場所を選ばないという利点はあるものの、技術的な課題、機材整備の課題などハード面やソフト面の課題も出ています。また対応策として、人材のスキルアップは欠かせないことであると思えました。

大津市議会では各種団体との意見交換会を兼ねてより活発に行われており、その土壌があったことからオンライン意見交換会への移行は比較的スムーズに行われていました。まずは、開催団体を増やしていくことが最初の一步ではないでしょうか。そこから、市民のみなさんに参加していただける機会を設けていく。例えば、専門分野の団体との意見交換での貴重な内容を自由に視聴してもらえるシステムの構築を図るなど。それが開かれた議会につながるのではないのでしょうか。

また、若者の議会への関心と投票率向上の仕組みづくりは最も関心のあるところであり、今後とも情報交換などご教示願えればと思います。